

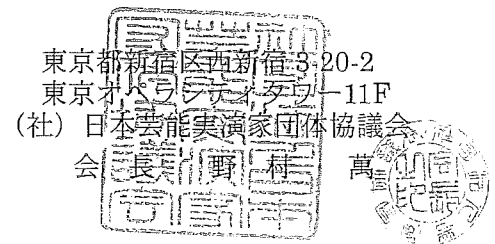
(様式第 14 号)

平成 22 年 4 月 28 日

事業実施報告書

(社) 私的録画補償金管理協会

理事長 砂原 幸雄 殿



平成 21 年度に貴協会から助成決定のあった事業については、下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

1 事業名 舞台芸術の現職者研修用教材開発事業

2 完了日 平成 22 年 3 月 31 日

添付資料

- (1) 事業報告書
- (2) 収支決算書
- (3) その他

・芸団協 E ラーニングコース 広報素材&マニュアル

以上

事業報告書

1 事業名

舞台芸術の現職者研修用教材開発事業

2 事業の実施経過

弊法人では、96年から芸団協セミナーとして、芸能の分野を超えたマネジメント関連の講座をはじめ、さまざまなセミナーを実施してきており、05年度より新宿区の廃校を活用し、芸能文化拠点「芸能花伝舎」として運営を開始。研修事業は「プロのための学校」として、芸能花伝舎の事業の柱のひとつとなっている。芸能花伝舎における研修事業は、専門家の間では定着し充実してきているが、来舎しにくい地域の在住者、遠隔地から、別地域でのセミナー実施の要望は少なからずあった。

今年度、基礎的な知識・情報、また関係者間で共有すべき最新情報については、入手しやすい教材化やITを活用した情報発信の仕組みの構築に着手した。具体的には、セミナーという学びの場だけでなく、首都圏域以外に在住する専門家に対して、また、日ごろ芸団協の活動に直接触れることのなかった舞台芸術関係者をも対象とできるよう、時間に制約を受けない学びの機会の提供を目指し、インターネットの活用を含む学習サポートシステムの開発を行った。その結果、2009年度中に「芸術団体のための財務会計・入門編」と「芸術団体のための財務会計・基礎編」のEラーニングコースをスタートさせた。

3 実施内容および成果

■教材開発

1) テキスト化

○「芸術団体のための財務会計」の従来のテキストをもとに、改訂版テキストを作成。会計担当の講師、税理士を交えて研究会を開催。テキストの内容を検討して、入門編と基礎編の新テキストを編纂。また、それらをもとに、基礎編の問題集も編集した。

○著作権講座、契約の基礎など、これまでのマネジメント基礎シリーズのセミナーの講義録を作成し、教材化への準備を行った。校正が全部終了していないので、年度内のテキスト出版には至らなかった。

2) インターネット上でアクセスできる学習サポートコースの開発

当初、ネット上で映像を閲覧する形のサポートシステムを選択肢に考えていたが、移動しながら音声を聞くほうが手軽に学習しやすいという意見もあり、導入だけ映像にし、主としてテキスト・問題集の自習を中心に、音声ファイルをネットからダウンロードできる仕組みを導入することとした。

また、完全に自習にゆだねると、途中で学習者が挫折しやすいので、平易な添削課題を組み込み、進捗状況を把握しながら、学習サポートを行うコースとした。そして、テキスト編纂が整った「芸術団体のための財務会計・入門編」と「芸術団体のための財務会計・基礎編」のコースから開講することとした。

■Eラーニングコースをスタート

当初、年末年始の休日に学習が始められることを目指し、システム開発は12月末に完了してアクセス可能となる予定だったが、運用上の修正が必要になるなどの不具合が生じ、検収に時間が必要だったことから、コース募集開始は1月にはいってから行った。年度中は短期間であったが、それでも入門編 31名、基礎編 24名が受講。首都圏域以外からの受講者が含まれており、こういうコースがありがたい、必要だったという声を複数いただいた。

2) コース運営

添削課題への返信、質問への返信、進捗状況を尋ねるなど、決め細やかな対応を心がけた。1期コースでは、直接講師に質問できる機会を組み込んだが、年度末の忙しい時期に、花伝舎に来舎する時間をとれた受講者は一人のみという結果になった。しかし、講師の丁寧な解説は受講者には非常に有益だったのと、コース運営者側にとっても、芸術関係の実務家の日ごろの疑問や課題について意見交換できるよい機会となった。このとき提示された疑問等への回答は、ほかの受講者にも有益と思われる内容だったので、来舎できなかった入門編受講者にも、内容のまとめを知らせるなどして、実務家の会計に対する基礎的な認識を高めるよう努めた。

受講者 入門編 32名
基礎編 24名(うち、23名が入門編も受講)

4. 予想される効果

「芸術団体のための財務会計」については、2010年度以降、入門編、基礎編を繰り返し開講するとともに、後続の管理会計や公益法人会計のコースができる見込みである(管理会計については、教材検討のための研究会も実施済み。コース開講準備を経て2010年夏開講の予定)。また、著作権、契約、法人組織等についても、テキスト草稿までできていますので、2010年度中に開講が可能となるだろう。

当初、テキストのみ販売も視野に入れていたが、学習サポートを必ずつける形の遠隔学習コースにして正解だったと考えている。実際に会計コースを実施してみて、教材を入手しただけで満足してしまい、忙しさに紛れて自習をしない受講者が少なからずおり、手間はかかるが、学習サポートをつけることで必ず実務担当者の学習がなされたことが確認できるからである。

昨今、芸術団体の会計事務の適正さが強く求められるようになってきているが、それに対応するためにも、実務担当者が基礎的な知識を獲得できるサポート体制として、Eラーニングコースは広く活用される可能性がある。首都圏域以外の実演芸術関係者に活用される方ができ、全国的な展開が期待される。

5. 本事業により作成した印刷物

芸団協 Eラーニングコース広報素材&マニュアル

6. その他

収支決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項目	予算額	決算額	摘要
テキスト販売収入	2,205,000	0	(下記に注1)
受講料	420,000	490,000	受講者 12,000 × 10 名 = 120,000 12,000 × 24 名 = 288,000 4000 × 9 名 = 36,000 2000 × 23 名 = 46,000
自己負担額	509,000	2,656,075	
SARVH助成申請額	3,000,000	3,000,000	
合計	6,134,000	6,146,075	

注1:テキスト販売は、当初、広く舞台芸術関係者を対象として行う計画だったが、会計に関しては教材を購入するだけで自習が進まない傾向があるので、実務家の会計処理に関する能力向上を促進するためには、Eラーニングの学習サポートを受ける受講者のみの教材とし、受講を奨励することとした。

2. 支出の部

項目	予算額	金額	摘要
講師謝金	441,000	322,500	21,000 × 3 名 × 2 回 = 126,000 31,500 × 1 名 = 31,500 82,500 × 2 名 = 165,000
ヒアリング謝金	105,000	110,670	
添削質問回答謝金			1,890 × 3 名分 = 5,670
音声ファイル吹き込み謝金			105,000 × 1 名 = 105,000
Eラーニング運営業務	0	417,711	(下記に注2) 417,711
テキスト原稿料	504,000	525,000	(入門、基礎編、基礎問題集、添削課題解説) 525,000
テープ起し原稿料	210,000	631,753	(会計、公演実務講座記録作成) 631,753
編集制作	630,000	451,500 *	(入門、基礎編、基礎問題集編集制作) 451,500
音声ファイル・映像・Web作成	525,000	476,800 *	(音声・映像) 250,000 1 式 = 250,000 (Web) 226,800 1 式 = 226,800
委託費(システム開発)	840,000	1,500,000 *	1,500,000 1 式 = 1,500,000
講師旅費交通費	56,200	114,620	(名古屋在住講師) 24,160 × 2 回 = 48,320 (宿泊2泊) 8,650 × 2 回 = 17,300 (福岡転勤講師) 49,000 × 1 回 = 49,000
会場費	420,000	0	(下記に注3)
宣伝費	63,000	85,000	85,000
印刷費	2,230,000	1,380,870 *	(入門編・基礎編テキスト) 800,100 (広報チラシ作成) 118,650 (管理会計テキスト) 315,000 (問題集) 147,120
通信費	40,000	90,600	(Eラーニング告知DMおよび教材発送費) 90,600
消耗品費	30,000	19,839	19,839
雑費	40,000	19,212	19,212
合計	6,134,200	6,146,075	

*印の費用(計3,809,170円)にSARVHの助成金を充当

注2: Eラーニングコース開始とともに、システムの運用管理および受講者とのやりとりが頻繁に必要なため、臨時職員が対応した。

注3: 収録のためのスタジオ費を予算計上していたが日本大学の協力が得られて、不要となった。